

女性教養講座でブリントン教授「自らの行動で意思を示そう」

各界の第一人者を招く女性教養講座は、時代の最先端の動きを知る機会です。6月、メアリー・ブリントン・ハーバード大学教授による「管理職のパワーアップが女性の力を強くする」と題した講演会が開かれました。



と語りかけました。

「新しいカルチャー」にパネリストが期待

講演を受け、坂東眞理子理事長・総長の司会で武川恵子グローバルビジネス学部教授、ニューヨーク・メロン銀行在日代表ダグラス・ハイマス氏、フィンランドセンターのアンナ＝マリア・ウィルヤネン所長によるパネルディスカッションが行われました。

講演を受け、坂東眞理子理事長・総長の司会で武川恵子グローバルビジネス学部教授、ニューヨーク・メロン銀行在日代表ダグラス・ハイマス氏、フィンランドセンターのアンナ＝マリア・ウィルヤネン所長によるパネルディスカッションが行われました。

武川教授は、出産後も働き続ける母親が増えたと指摘、企業に積極的な女性登用を求めた女性活躍推進法(2016年)、女性候補者を増やすための政治分野における男女共同参画推進法(2018年)に期待しました。

ウィルヤネン所長によれば、世界初の女性国会議員を誕生させたフィンランドでは現在、閣僚19人のうち女性が11人を占めています。男女平等に根差した家庭教育や父親のサポートが重要で、女性たちのネットワークやベストプラクティスを共有する取り組みが続いています。所長は学生たちに「女性は世界最大の、まだ活用されていない才能の宝庫である」と力強くメッセージを伝えました。

一方、今の学生は「史上最も高い教育を受けた」女性であり、経営者も大卒女性の資質の高さを認識し、労働力不足や、公私のバランスを重視する企業の増加など追い風が吹いていることに注目します。企業に対し、長時間労働は生産性の高さとは結びつかないことに気づき、女性社員を管理職に登用するように求めました。

学生たちに「自らの行動で意思を示す」ように呼びかけ、「どのような人生を送りたいのかよく考え、就職を自らの手で社会を変える大切なチャンスとして生かしてほしい」



ハイマス氏は、企業に女性取締役を増やすよう働きかける「30%クラブ」のアドバイザーボードメンバー。“男性支持者”として「女性代表者を増やしていけると確信している」と語り、「アイデアあふれる若い世代に新しいビジネスカルチャーを作ってほしい」とエールを送りました。

秋桜祭

第27回 秋桜祭「結」
2019年11月9日(土)・10日(日)

100を超える団体が皆様のお越しをお待ちしています。今年のテーマは「結」。2019年9月からテンブル大学ジャパンキャンパスが本学西キャンパスに移転し、今まで以上にグローバル化が進みます。これに伴い、日本の文化と海外の文化がつながり、新たな発見の場となるように願いを込めたコンセプトを決めました。また、令和元年の学園祭として「新たなスタート」にしたいです。

- 学科・研究室・有志による研究発表
- クラブ・サークルの活動発表
- 特設ステージでのイベント
- 模擬店など
- きゃりーばみゅばみゅ コンサート

秋桜祭についての最新情報は
Twitter@cosmos_SWUをご覧ください。
皆様のご来場をお待ちしています。

学報に掲載されている記事はWEBでも配信中
学生記者たちが中心となって大学の魅力を
多彩なテーマで発信しています。▶▶▶



2019年度 文化講座一覧

文化講座は、ご家族の方も座席に余裕がある場合はお申し込みいただけます。詳しくは創立者記念講堂事務室までお問合せください。【創立者記念講堂事務室:03-3411-5120 (月～金 9:00～17:00)】

■女性教養講座

講座番号	講演日・開始時間	講 題	講 師 (敬称略)
A	5月8日(水) 15:30	〈1年生必修〉 自己尊重の自己表現アサーション ～健やかな心とさわやかな人間関係のために～	平木 典子 統合的心理療法研究所(IPU)顧問
B	5月22日(水) 15:30	日本の教育課題	下村 博文 衆議院議員
C	5月29日(水) 15:30	映画監督の仕事とは	本木 克英 映画監督
D	6月19日(水) 15:30	TOKYOの観光都市戦略と ナイトタイムエコノミー	梅澤 高明 A.T. カーニー-日本法人会長
E	6月29日(土) 13:10	〈必修の学科:英コ、国際、ビジネス〉 ※左記以外の学科も受講可 "Empowering Managers, Empowering Women" ～管理職のパワーアップが女性の力を強くする～	メアリー・ブリントン ハーバード大学ライオン日本研究所所長 同研究所社会学教授
F	7月3日(水) 15:30	現代のロシアと日本	ミハイル・ユリエビッチ・ガールージン 駐日ロシア連邦大使
G	10月16日(水) 15:30	コミュニケーション力を鍛える	堀尾 正明 フリーキャスター
H	10月23日(水) 15:30	自分の中の原石を見つける方法、育て方	茅野 しのぶ 株式会社オレカンパニー クリエイティブディレクター・衣装デザイナー
I	11月6日(水) 13:10	理想の自分になる方法 ～これからの生き方～	江藤 隆二 株式会社ストーリー 代表取締役 英経協(COJ)認定COA-Japan キアリアベンディスト
J	11月13日(水) 15:30	どんな時でものちは輝く ～人生100歳時代を迎えて～	秋山 正子 認定NPOマギーズ東京センター長、 敗アース代表取締役、会計監理職代行士・監理員
K	11月20日(水) 15:30	SDGs達成に向けて ～共創とイノベーションがひらく 誰一人取り残さない未来～	近藤 哲生 国連開発計画(UNDP)駐日代表
L	11月30日(土) 13:10	ジャーナリストとして社会を変えてきた50年 ～女性だったから見えたこと～	大熊 由紀子 国際医療福祉大学大学院教授 (医療福祉ジャーナリズム分野)
M	12月4日(水) 15:30	2020東京オリンピックの前に知っておこう スポーツって何?	宮崎 泰子 テレビ朝日スポーツコメンテーター 日本女子体育大学招聘教授
N	12月11日(水) 15:30	医療的ケアがあっても安心して暮らしたい ～もみじの家の目指す社会～	内多 勝康 国立成育医療研究センター もみじの家/ハウスマネージャー

※開場時刻は、15:00です。(6月29日、11月6日、11月30日は12:40)

■文化研究講座

講座番号	公演日・開演時間	公演名	出演者 (敬称略)
1	4月23日(火) 18:15	〈1年生必修〉 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団	梅田俊明、貫川風
2	5月14日(火) 18:15	俳優座演劇「ハーヴェイ」	
3	5月21日(火) 18:15	千住眞理子&横山幸雄 デュオ・リサイタル	千住眞理子、横山幸雄
4	5月24日(金) 18:15	モンゴルの歌姫ウユンタナとアジアのメロディ	ウユンタナ、李広宏
5	6月21日(金) 18:15	V.4 4人の美しきヴァイオリニスト	渡辺玲子、小林美恵、川久保隆紀、松田理奈
6	6月25日(火) 18:15	音楽座ミュージカル「グッバイマイダーリン★」	
7	7月11日(木) 18:15	ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団	エリアフ・フィンバル
8	10月2日(水) 18:15	ブルガリアン・ヴォイス～アンジェリーテ～	
9	10月3日(木) 18:15	佐藤俊介 with オランダ・パッサ協会管弦楽団	佐藤俊介
10	10月15日(火) 18:15	英国女王陛下の近衛軍楽隊	
11	10月17日(木) 18:15	館野泉ピアノリサイタル ～ヤンネ・館野を迎えて～	館野泉、ヤンネ館野
12	10月24日(木) 18:15	新日本フィルハーモニー交響楽団	石崎真弥奈、伊藤恵
13	11月18日(月) 18:15	落語鑑賞会	三遊亭円楽、林家二楽、桂小文治、一龍斎貞友
14	11月21日(木) 18:15	わらび座ミュージカル「ジバング青春記」	
15	12月2日(月) 18:15	ドレスデン国立歌劇場室内管弦楽団	ヘムルート・フランニー、森麻季

※開場時刻は、17:45です。

昭和学報

INDEX

- スーパーグローバルキャンパス 2
- 特色ある昭和の学び 4
- キャンパスニュース 6
- キャリア 7
- 女性教養講座 8

「スーパーグローバルキャンパス」誕生

多様な文化が共生する新キャンパスからグローバルに活躍する人材が育つ

理事長・総長

坂東 眞理子

2019年夏、昭和女子大学の新しいステージが始まります。通称西キャンパス、昭和女子大学に隣接した地へ新築されたビルに、ペンシルベニア州立テンブル大学ジャパンキャンパス(TUJ)が移転してきます。学部生約1200名、教職員約350人、このほか、教育大学院や法科大学院、社会人向けプログラムなどの学生もいます。東京でフィラデルフィアの本校と同じレベルの授業を行い(もちろんすべて英語です)アメリカの大学卒業の学位を授与しています。

昭和女子大学の学生でTUJが要求する英語力レベル(TOEIC換算で約800点以上)を

持つ学生は每

学期15人、1年

で45人の学生

が科目履修生として

受け入れて

もらえます。また

昭和女子大学

で3年、TUJで

2年学び、日米双方の大学卒業資格(学士号)

が取れるダブルディグリー・プログラムも

あります。昭和女子大学の授業をTUJの学

生も受講します。そのほかにも学生同士が交

流する機会がたくさん生まれます。

すでに校友会と学生自治会の交流、日本

の美術館を双方の教員と学生と一緒に見学

する、長瀬で学生たちが合同のアクティビ

ティを楽しむ、昭和女子大学の箏曲部が



TUJで演奏するなどの活動が行われています。体育施設やカフェテリア、図書館などで日常的な交流もあるでしょう。

もちろん文化の違い、価値観の違いで生まれる摩擦や衝突もあると予想しています。

TUJはアメリカの大学の常として学生を自己責任で行動する自立した個人として対応しています。一方昭和女子大学は、学生を保護者と協力して保護・指導してあげる対象として対応しています。昭和女子大学の学生も少なくともTUJの学生との交流にあたっては自分で責任をもって行動することが期待されます。それは新しい経験でも受講します。そのほかにも学生同士が交流する機会がたくさん生まれます。

すでに校友会と学生自治会の交流、日本の美術館を双方の教員と学生と一緒に見学する、長瀬で学生たちが合同のアクティビティを楽しむ、昭和女子大学の箏曲部が

度実施していき

ます。また、10月

11月には、本学創

立100周年イベン

トの一環として、

TUJの学生の母

国の料理を基に、

健康美プロジェクトが開発し、カ

フェテリア・ソフィアで提供します。もちろん、

両校の学生が互いに日本語と英語を学ぶ機会も

準備されています。TUJ学生のための日本語

サロンはグローバルネットワークや他の

学生団体を中心に10月からスタートの予定です。一方、本学学生のための英語サロンはTUJのStudent Governmentが同じ10月

からセッションを始めます。また、11月5日からTUJ内のギャラリーにて、両校協働のプロジェクトなどの授業外活動での交流、そして、カフェテリア、図書館等の施設の共有など、同じキャンパスにあるからこそできることが、たくさんあります。

すでに始まっているプロジェクトや準備が進んでいる活動のいくつかをご紹介します。本学の歴史文化学科とTUJのArt専攻の学生がMuseum Visit Projectを6月

からスタートしました。共に博物館を訪問し学び合う企画です。今後も2か月に1回程

来年度に迎える、100周年を前に新しい昭和女子大学がスタート

学長 金子 朝子

昭和女子大学は、学生が入学した時よりも成長して卒業する大学として、また、「世界とつながる」「企業や社会とつながる」大学として、将来の活躍の場を日本ばかりでなく世界にも広げられる女性リーダーとなる力を持つ人材の育成を目指しています。いよいよ、そのための更に大きな前進の日が近づいて来ました。

2019年9月2日、アメリカ、ペンシルベニア州立テンブル大学ジャパンキャンパス(TUJ)の秋学期が、本学の敷地内でスタートします。他のどの大学も行ったことのない、先進的な教育環境づくりに両校が取り組みます。交換留学、科目等履修生の受け入れなどの授業や、イベント、クラブ活動、プロジェクトなどの授業外活動での交流、そして、カフェテリア、図書館等の施設の共有など、同じキャンパスにあるからこそできることが、たくさんあります。

来年度に迎える、本学100周年を前に、新しい姿の昭和女子大学がスタートします。「世の光となろう」という建学の精神を旨に、伝統をそのままの形で引き継ぐのではなく、その魂と精神を大切にしながら、学生の将来を見据えた教育を進めて参ります。昭和で学ぶ学生の変る成長を大いに期待しています。



SUPER GLOBAL CAMPUS

キャンパス国際化新ステージへ

「女性文化の帆を張りて、海路はるけく漕ぎ出たり」と創立者人見国吉が謳った建学の精神を受け継ぎ、昭和女子大学はキャンパスの国際化にかねてから取り組んできました。海外の大学であるテンブル大学ジャパンキャンパスを迎えることで、国籍も年齢も性別も多様な人々の交流が可能となる、「スーパーグローバルキャンパス」が誕生します。

2006年、世田谷キャンパス内にブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭(BST)が開校しました。8～18歳の約620人が通学し、大学生との英会話クラブに参加したり、図書館などでインターンをしたり、交流しています。

昭和女子大学 × TEMPLE UNIVERSITY Japan Campus

SUPER GLOBAL CAMPUS



テンブル大学アメリカ本校は 伝統ある州立大学

テンブル大学(リチャード・イングラート 総長)は、アメリカ東海岸ペンシルベニア州フィラデルフィアにある州立の総合大学で、州内7か所のキャンパスに加えてローマと東京にもキャンパスを持ち、学生数は約4万人で全米の公立4年制大学中38位の規模を誇ります。

創立は1884年。弁護士でバプテスト教会牧師だったラッセル・コーンウェル氏が始めた夜間学校です。自分が所属していた教会(バプテスト・テンブル)を利用したのが始まりで、大学名がテンブル大学となりました。

現在では総合大学として17の「カレッジ」および「スクール」をかかえ、170の分野で学士号が授与されています。また176の分野で修士号、68の分野で博士号を取得できます。さらに、法学、歯学、医学、薬学、足病治療の5つの分野では、それぞれの専門学位を目指す学生たちが学んでいます。

開校37年のテンブル大学 ジャパンキャンパス

テンブル大学ジャパンキャンパス(Temple University, Japan Campus = TUJ)は、日本で入学、卒業できる唯一のアメリカの4年制総合大学です。

TUJは1982年に東京に開校し、翌1983年、日本で初めてアメリカの大学教育を提供する場として、大学学部課程が誕生しました。日本では最も歴史の長い外国大学で、2005年に文部科学省より「外国大学の日本校」として初めて指定されています。授業はもちろん、掲示物や大学のお知らせも全て英語で、本物の国際力を養える学習環境です。

日本での長い経験と実績を生かし、世界各国から集まる国際色豊かな学生たちにきめ細かく対応すると同時に、アメリカの大学教育の特長と高い水準を日本の社会に提供することを使命としています。この使命を果たすために、TUJではアメリカ本校から承認された教員陣により、全ての授業が

英語で行われ、その内容および取得する単位・学位も本校と全く同じです。

大学学部課程に加え、大学院課程として大学院教育学研究科、ロースクール、エグゼクティブMBAプログラムがあります。さらに学位取得を目的としないアカデミック・イングリッシュ・プログラム、生涯教育プログラムで学ぶ学生と、企業内教育プログラム及び教育機関・関連団体向け英語研修プログラムの受講生を合わせ、約4000人が学んでいます。

学部と大学院の学生数は約1500人で、約60%が欧米を中心とする外国籍、出身国は約60か国・地域と多様性に富んでいます。



テンブル大学 ジャパンキャンパス 学長 ブルース・ストロナク

Dr. Bruce Stronach

THE OLDEST AND LARGEST AMERICAN UNIVERSITY IN JAPAN

Established in Tokyo 東京に開校 **1982**

Designated by Japan's Ministry of Education as the country's first Foreign University, Japan Campus 日本初 文科省指定 「外国大学日本校」

International environment. Students from 60 countries and regions. 60か国・地域からの学生が学ぶ国際的なキャンパス

Earn an American university degree without leaving Japan 日本で米国の学位取得

100% English 授業は全て英語

The same curriculum as Main Campus 米日本校と同一のカリキュラム

Transfer to/from a Japanese university. Attend graduate school in Japan 日本の大学と単位互換や、卒業後には日本の大学院への進学も可能

Global partnership programs 世界に広がる提携校プログラム

出典: TUJの概要2019より

学校法人 昭和女子大学 スーパーグローバルキャンパス

昭和ボストン SHOWA BOSTON

1988年に米国ボストンに開設した昭和女子大学の海外サテライトキャンパス。春・夏休みを利用した短期留学から1年半など長期留学まで毎年500人以上の学生が学んでいる。

大学院	テンブル大学ジャパンキャンパス(TUJ) Temple University Japan Campus
昭和女子大学	
附属昭和高等学校	ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和(BST) The British School in Tokyo SHOWA
附属昭和中学校	
附属昭和小学校	2006年8月28日、学校法人昭和女子大学が、世田谷キャンパス内に設立。イギリスの義務教育課程に基づき、小学校から高校までの教育を行う。
附属昭和こども園	駒沢パークインターナショナルスクール(KPIS) Komazawa Park International School

1998年、世田谷区深沢に設立。1歳半～5歳を対象に英語による幼児教育を行う。小中学生向け英語プログラムも。2018年11月より学校法人昭和女子大学が経営。



昭和女子大学のダブルディグリー・プログラムとは、本学と海外協定校の両方で学び、2つの学位(卒業証書)を取得するプログラム。2つの学位を5年間(本学3年間・協定校2年間)で取得できるのが大きな魅力です。現在、本学は中国の名門校・上海交通大学と韓国伝統校・ソウル女子大学の2大学と協定を締結し、プログラムを実施しています。そして今年度から、米国ペンシルベニア州立テンブル大学ジャパンキャンパス(TUJ)と国際学部国際学科・英語コミュニケーション学科とのダブルディグリー・プログラムが、新たにスタートします。

TUJは、文部科学省から「外国大学の日本

校」に指定されており、米国本校と同じ学位を日本で取得できる大学です。TUJと本学とは、全学生を対象に授業履修や単位互換制度を実施していますが、2019年9月、TUJの校舎が本学の敷地内に移転することを機に、お互いに多くの学生が多様な人々と学びあい、交流することを期待しています。

昭和女子大学入学 2019年春	2020年春	2021年春	2022年春	TUJ卒業 2023年夏	昭和女子大学卒業 2024年春
1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	
昭和女子大学 留学に備えて集中準備教育を受講			TUJに編入学して正規カリキュラムを履修		昭和女子大学
			2021年秋 TUJに編入学		2023年秋 昭和女子大学に戻る

ダブルディグリー・プログラム実績

上海交通大学

1992年に国際交流協定を締結、2013年度からダブルディグリー・プログラムスタート
第1期生10人(2017年度)卒業
第2期生12人(2016年度)卒業
中国の名門校・上海交通大学の中国言語専攻科に入学。
語学力を高めながら中国の伝統文化や現代文化を学びます。
帰国後は中国語で卒業論文を仕上げます。



ソウル女子大学校

第1期生1人(現在4年生)留学中
第2期生9人(現在3年生)留学中
韓国の私立女子校・ソウル女子大学校の韓国語文学科に入学。
語学・文学の専門的知識と理論を深めます。



歴史文化学科とTUJの学生が 美術館見学で交流

テンブル大学ジャパンキャンパス(TUJ)との統合に先駆け、人間文化学部歴史文化学科とTUJアート学科の学生たちが6月15日に刀剣博物館(墨田区)、7月6日に東京都写真美術館(恵比寿)を訪れ、親交を深めました。

歴史文化学科の田中真奈子専任講師とTUJアート学科の渡部真也上級准教授が企画し、それぞれ両校の学生約30人が参加しました。刀剣博物館では、日本古来の製鉄法や日本刀の製作工程について田中講師から解説を受け、展示室で「日本刀の見方 姿」展を鑑賞しました。懇談会で意見交換し、これをきっかけに後日、ランチを楽しんだ学生も。

初回の経験を踏まえ、2回目は事前に自身写真家でもある渡部上級准教授が歴史文化

学科で写真の鑑賞法を指導。美術館見学当日は、「TOPコレクション イメージをよむ場所をめぐる4つの物語」展などを一緒に鑑賞し、写真の表現力を幅広く学びました。芸術作品鑑賞を通じた学生同士の相互理解と言葉を超えた交流を目的に、今後も10月、11月、来年2月、3月に実施していく予定です。



世界大学ランキング日本版2019で初のトップ100にランクイン

昭和女子大学が、イギリスの教育専門誌Times Higher Education (THE)の「世界大学ランキング日本版2019」で総合ランキング95位に位置しました。100位までにランクインした女子大学はわずか4校。うち私立は2校のみでした。

また「国際性」も54位と高い評価を受けました。留学を必修とする3学科をはじめ、全学生対象の海外研修に加え、上海交通大学(中国)、ソウル女子大学校(韓国)へのダブルディグリー・プログラムなどの実績が評価されています。

このうち「教育充実度」は全国公私立大学中39位と大幅に上昇。私立大学では20位に位置しました。近年では様々な視点から大学の教育力を

数値化し、ランキングで表すメディアが増えました。本学は、それぞれで高い評価を得ていますが、今回から新たに教育充実度について在学生調査が加わり、その満足度が高かったため、ランクが急上昇しました。また「国際性」も54位と高い評価を受けました。留学を必修とする3学科をはじめ、全学生対象の海外研修に加え、上海交通大学(中国)、ソウル女子大学校(韓国)へのダブルディグリー・プログラムなどの実績が評価されています。



TUJ生と学食メニュー提案「世界食堂」

創立100周年記念事業の一環として、国際色豊かなメニューを提案する「世界食堂」プロジェクトを進めています。テンブル大学ジャパンキャンパス(TUJ)移転を機に、「食」を通じてTUJと学生同士が交流し、互いの文化を理解することが目的です。

この企画は、「輝け☆健康[美]」プロジェク

トメンバーを中心に、学生9人とTUJの学生数人が参加しています。「輝け☆健康[美]」プロジェクトは、健康で美しい女性になることに決めました。今後、試食会で意見交換を行う予定です。第1弾メニューは、今秋実際に学食で提供されますが、TUJには様々な国籍の学生が所属しており、今後も国際色豊かなメニューが期待できそうです。

今回、学生たちはSNSやテレビ会議などで試行錯誤を重ね、メニュー開発を続けてきま

学寮研修 リーダーシップを鍛える「プロジェクト型学寮」



昭和女子大学の特色に、長年続く宿泊研修プログラム「学寮研修」があります。学科ごとに3泊4日で行います。人間社会学部現代教養学科で5月、3年生が自ら企画・運営を担う「プロジェクト型学寮」を望秀海浜学寮(千葉県館山市)で実施しました。昨年度の環境デザイン学科に次いで、現代教養学科では初の試みです。

「参加」から「参画」へ

学寮研修は、従来、教員が決めた企画に学生が参加してきました。しかし学生から「自分たちの意見を取り入れたプログラムにしたい」という声があがり、学生が企画から「参画する」形に変わりました。リーダーシップの育成と、学生の企画・運営力向上を目指します。

3月上旬、「学寮リーダーズ」と呼ばれる10人の学生による運営チームが発足しました。リーダーズは、専門分野の学びだけでなく、責任感、多角的な視点、発想力、プレゼン力を身に付けることを目標に、学寮研修を計画しました。

具体的には、「温故知新」をテーマに、過去・現在・未来の時間軸に沿って、学寮のある千葉県・館山について「社会調査アクティ

ビティ」を行い、最終的に館山の未来について提案するというものです。「過去」を知るため館山と戦争の関係を学び、「現在」を知るために現代の海と人との関わりを学びます。そして「未来」に向け、各ゼミの専攻と関連付けて館山の魅力をどのように社会に発信していくかを考えます。

この企画は、ゼミの結束という高い効果をもたらしました。4月にゼミが始まったばかりの3年生でしたが、「ゼミ単位で専門を活かしながら提案を行う」ことが求められ、おのずとゼミ生同士の結束力が高まりました。

伝統から「れいわ」へ

学寮リーダーズたちは、企画に加え改革にも着手しました。役割によって負担に差があった係について廃止あるいは増員し、無駄な会議をやめ、発表の準備に時間を有効に使えるようにしました。

さらに、伝統の「灯(ともしび)の集い」を見直しました。暗闇の中でロウソクの灯だけで発表する行事でしたが、顔を見て、より深く相互理解できるように、思い切って明るいところでの一人1分ずつのスピーチ形式に変更。「これまでの自分と、これからの自分」というテーマでクラスごとに実施する行事に切り替え、新たに「零話(れいわ)」と名付けました。

100人以上のチームをまとめる経験をした下山永里奈さんは「リーダーシップとは、自分だけが目立って、一人で全てこなすものではない。協力して組織全体が良い方向に行くことが一番大切。この学びは卒業後にも繋がる」と振り返りました。改善点などを洗い出し、次年度へ伝えていきます。

短期海外研修 桃太郎を伝えた「アメリカ初等教育演習」

人間社会学部初等教育学科では、英語で学び、実習も行う「アメリカ初等教育演習」を実施しています。参加した園部瑠奈さんに話を聞きました。

教職志望だけじゃなく海外で学びました

「アメリカ初等教育演習は、3週間のプログラム。ボストンの幼稚園や小学校を訪問し、子どもたちと交流しながら日米間の教育の違いを実践を通じて学びます。

授業で使う言葉を教わったり、英語で歌ったりと楽しいプログラムでした。レスリー大学やウェルズリーカレッジの学生とも交流しました。現地の学校での実習の合間には、ダウンタウンで買い物や食事もしました。

私は私立学校の3歳から9歳までの授業で、子どもたちや先生の姿を見て、日本との違いを見つけることができました。特に印象に残ったのは、美術室にたくさん絵本が置かれていたこと。本から発想を得て作品を形にしていたことです。子どもたちが早口で、コミュニケーションをとるのは難しかったのですが、一緒に遊ぶことですぐに仲良くなれました。

一番の思い出は、子どもたちに日本文化

を伝えたことです。私は4歳のクラスで桃太郎をテーマにしました。紙芝居や折り紙、塗り絵をともに楽しみました。

「子どもたちが集中できる環境づくり」とは

活動を進めながら、どのように声をかければ子どもたちがより集中できるかを、先生の姿から学ぶことができました。たとえば、先生の話に集中させたい時には10数分を達成したプロジェクトを紹介しました。

一から計画をたて英語の説明を考え、教材を用意するのはとても大変でしたが、子どもたちに喜んでもらったので大きな達成感を得られました」



サマープログラム 最新の心のケアを知る「アメリカ心理学研修」



院(Boston Children's Hospital)で、病と闘う子どもたちに対する最先端の心のケアを学びます。ヘレン・ケラーが学んだ視覚障がい者のための学校「Perkins School for the Blind」で、視覚障がい者に対するメンタルサポートの手法を学びます。

全米で最大規模の自閉症スペクトラム児専門の教育機関である「Boston Higashi School」では、日常生活療法の実践について学び、発達障がい児に対する支援について理解を深めます。

犯罪心理にも挑戦

ユニークなものに、ボストン犯罪ツアーがあります。全米の歴史上有名な連続殺人事件や犯罪者を通して、犯罪心理について学びます。刑務所を改築したホテルなど、日本ではあまり体験できない場所も視察します。

担当する池上真平専任講師は「参加した学生は日本との違いに驚き、とても貴重な経験。自分も学生だったら行きたかった。羨ましいと思うほどのプログラム」と、教科書を超えた学びの重要性を語っています。



短期海外研修 日本を見つめる「北欧福祉研修」

人間社会学部福祉社会学科は、夏休みを利用して「北欧福祉研修」を行います。フィンランドとデンマークを約1週間訪問し、福祉先進国の実情を肌で感じ取り、日本の福祉のあり方を考える本学独自の研修です。全学年履修できますが、実習などとの関係から下級生が多く、今年は1・2年生の14人が参加します。



事前に外部の専門家による講義で現地生活について学び、準備に時間をかけます。帰国後は、発表会を通して丁寧に振り返ります。事前・事後教育を充実させることで、現地で問題意識を持ち、課題発見につながります。

進路希望に沿った訪問先

訪問先は学生の進路希望を踏まえて決定します。昨年は小児病院を訪ねました。今年は高齢者・障害者アパート、学童保育

所、児童養護施設などを予定しています。また、デンマークにある福祉職養成大学 University College Copenhagenで、英語の講義を受け、学生と交流します。日常的に福祉英語に慣れ親しんでいる学生にとっては、格好の実践の場といえます。

福祉・文化に広がる視野

日本の福祉事情を知っている2年生は北欧の福祉制度を目の当たりにし、独自の制度や設備、社会と福祉の関係、スタッフの労働環境などあらゆる面の充実度に驚くそうです。1年生は「北欧と比べて、日本の状況は？」と、学修への問題意識を持つようになります。

担当教員の一人である佐藤千晶専任講師は「福祉だけでなく異文化に触れることで学生の視野が大きく広がる。1年生からどんな挑戦してほしい」と話していました。



プロジェクト インバウンド戦略で出荷数300%増

昭和女子大学では、企業や自治体と連携した様々なプロジェクトを通じて、社会で通用する学びを目指しています。その中で現実の「成果」に結びつく例が出ています。施策実施後1か月で、前月比出荷数300%を達成したプロジェクトを紹介します。

ヘルスケア分野のマーケティング

ビジネスデザイン学科・薬袋貴久(みない・たかひさ)ゼミでは、井関産業の女性社員が手掛けるブランド「ラコルベユ」と昨年からの協働し、女性向け肌着・下着用洗剤ラブリー365のマーケティング戦略の立案・実践・検証を行っています。

名づけて「ラコルベユ・ブランドレゾナンス・プロジェクト」は、マーケティング戦略を専門とする薬袋准教授が、一般財団法人日本ヘルスケア協会の理事を務めるなど、近年、ヘルスケア領域における新たな市場創造に取り組んでいることがきっかけで始まりました。変化が激しいヘルスケアビジネスのマーケティングを最前線で学び、実際に店頭で実験し、出荷数などへの影響を検証します。

ターゲットは中国人観光客

今回取り組んだラブリー365は、後発商品のため認知度が低いことが課題でした。そこで中国人観光客を対象に絞り、プラン

ド認知の確立と買上点数増を目指しました。まず最初に、中国人にインタビュー調査を行いました。肌着や下着の汚れに対する意識や悩みを聞き、どのようなメディア・人物に影響を受けて購入に至るのか、具体的な声を集めました。その結果、SNSや動画配信サイトなどで影響力を持つインフルエンサーの存在を突き止めました。これを受けて戦略を立てるのですが、コストや手間を度外視したアイデアは次々に思いつくものの、実現可能なコストと、店舗側の制約条件をなかなか克服できません。



「人間を動かす」学び

競合との比較検討を重ねた結果、他社製品に対抗しうる強みとして、肌着以外の汚れを簡単に落とせる機能性やコストパフォーマンスの良さに気づきました。

これらの強みを訴求するため、①製品コンセプトを表現するキャッチコピー②インバウンド向け競合商品とのコンセプト比較

特色ある昭和の学び

TA制度 3年生が1年生の課題解決をサポート

グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科1年次の必修科目「グローバルビジネス基礎演習1」は、ワークショップを通じて、個人・チームによる課題発見と解決のための手法を学びます。昨年度からユニークな取り組みが始まりました。

この授業を進行するのは教員ではありません。「ティーチング・アシスタント(TA)」と呼ばれる3年生の学部生です。今年度は「後輩の力になりたい」と26人が志願し、選抜された12人がTAとして活動しています。

「教える」から学ぶ

授業ではリアセック社開発の「タクナル」という指導メソッドを活用しています。これは、グループワークを通じて、主体的に課題解決に取り組む力を育てるものです。「お客様が喜ぶ(移動動物園)を企画しよう」「プラスバンド部でのメンバー同士の衝突を解決しよう」など、正解はないが、よりよい答えを導き出す課題に挑みます。

TAの役割は、1年生同士が議論しやすい雰囲気を作り、必要に応じてアドバイスしながら、ファシリテーターとして1回90分の議論をより良い方向に導くことです。そのため、教員とともにノウハウを学び、毎回の講義の前日に予習します。

TAは後輩の成長に貢献するだけでなく、TA自身も、自分の強み・課題を認識し、準備・進行・振り返りをする力を身に付けていきます。春からTAを務める学生は「TAの経験によって、自分の意見をしっかり話す力が身に付いた。就職活動などで活かしたい」と話しています。

学生同士ならではの悩みも

一方で、学部生が学部生を教えるゆえの感情的な悩みもあるといいます。タクナルを本学に導入した前田教授は「失敗したか成功したかではなく、うまくいったチームから学んだり、なぜうまくいかなかったかを考えたりすることが大切」とアドバイスしています。

下級生の学びに貢献しながら自分自身も成長できるTA制度は、今後ますます重要度を高めていくと思われます。



POP③サイドネットを活用したプランogram(棚割り)を提案しました。

店内でも競争の激しいサイドネット売り場ですが、学生の戦略提案の論理性や売り場への貢献可能性が評価され、大手ドラッグストアのサイドネットでの販売が実現しました。2019年3月末から実施し、1か月後には店頭への出荷実績を前月比300%以上に伸ばすことができました。



薬袋准教授によれば、「マーケティングとは顧客の選択や行動に影響を与えるもの。常に「当事者意識」を持ち「相手の立場で考えること」が大切」です。参加した学生は「人を説得するにはアイデアのユニークさだけでなく、しっかりとした根拠やデータが必要だと気付けた」と語りました。

世界の学生社会起業ビジネス コンテスト会場として運営



昭和女子大学は、今春ハルト・プライズ(Hult Prize)ビジネスコンテスト地域予選大会の日本会場となり、世界約30か国の約50大学から200人以上の学生が集まり、互いの社会起業アイデアを競いました。ハルト・プライズは、世界中の大学生・大学院生200万人以上が、社会課題解決の事業プランをチームで競うビジネスコンテストです。世界30か国で地域予選を開催しますが、日本での開催は初めてです。

今回のテーマは、「若者の失業」です。いかにしてビジネスを起こして若い世代の失業を減らすか。2日間にわたって、昭和女子大学キャンパスで英語によるプレゼンテーションを行いました。

ゴミ再生で雇用創出

昭和女子大学からは、学内予選を勝ち抜いたDream Seedが出場しました。ビジネスデザイン学科4年のTee Xin Yeeさん、中

澤佑紀奈さん、高橋利奈さん、白鳥彩香さんの4人は社会課題を解決するため、多角的に取り組む5回もテーマを変えてアイデアを練りあげました。

最終的なアイデアは、レストランの生ごみを回収して堆肥にして販売するもの。200店のレストランと契約して10人の雇用を生み出し、年間360トンのゴミを減量し、将来は世界に1000店舗をつなぐという意欲的なアイデアを発表しました。

「就職活動のピークとスケジュールが重なって両立が大変でしたが、生ごみの問題への理解が深まりました。農家に会いに行くとニーズを聞いたり、オーガニック無農薬野菜を販売している店とパートナーシップを締結したり、協力に感謝しています。4人で最後まで励みし合ったからこそできたこと。やり遂げてよかった」とそれぞれに語りました。

運営には、ボランティアの学生10人が参加。約3か月間をかけて準備を重ねました。渋谷・ヒカリエに会場を移して行われた最終選考の結果、日本地域予選から世界大会に進む1チームには北海道大学のチームが選ばれ、Dream Seedは選抜を逃しました。とはいえ、参加者、ボランティアともに、多くの国の学生たちと交流し、他では得難い貴重な経験を積むことができました。

Students of the Year

人見記念講堂で2月12日、2018年度のStudents of the Year受賞者が発表され、表彰式を行ないました。これはボランティアなどの善行、外部コンペティションに入賞、国際的な競技大会の成績など、年間の学内外での活動を評価し、他学生の模範となる学生を選出して表彰するものです。Hult Prize運営事務局 一同

国際的なビジネスコンテストを運営するHult Prizeの昭和女子大学支部として学内予選の計画・運営、世界地区予選選出代表チーム選出、昭和女子大学支部としての後継者育成など。大島 七海さん

湯川ゼミ3年生 一同

食料廃棄問題とクリーンエネルギーをテーマにビジネスアイデア「CYCLE」を提案し、優秀賞を受賞。

プロジェクト学寮 執行部 一同

環境デザイン学科3年生の学寮において、学生主導型プロジェクト学寮の執行部に志願し企画・運営を担い、多くの学生が有意義であったと満足できる新しい学寮研修を実現。



環境デザイン学部新設 「人と社会のデザイン」で 新たなビジョンを開く

これまで、生活科学部環境デザイン学科として、衣食住のうち「衣」「住」をテーマに取り組み、「食」を研究する食安全マネジメント学科、健康デザイン学科とともに、すべての人に不可欠な健康的で豊かな生活の支援を目指してきました。社会の変化に対応して、これまでの「生活環境のデザイン」から、より広い視野で「人と社会のデザイン」の課題をとらえるべく、新たに学部として独立することになりました。

環境デザイン学部環境デザイン学科には、4コース(専門分野)を設けます。4つのコースは学寮研修やプロジェクト活動を行う「DP総合演習」などで協働し、「ソーシャル」「コミュニケーション」「パーソナル」の3領域からコア科目を設けます。専門性を身に付けると同時に、横断する複眼的な視野を養い、多様化する社会の要請に応える人材を育成します。

4つのコースは次の通りです。①建築・イ

ンテリアデザインコース=JABEE認定プログラム、一級建築士受験資格(実務2年)を取得できます。②プロダクトデザインコース=発想を形にする表現力を身に付け、人と社会を結ぶプロダクトを創造します。③ファッションデザインマネジメントコース=ビジネス展開を学び、TES(繊維製品品質管理士)の資格取得を支援します。④デザインプロデュースコース=デジタルスキルで多様な価値をデザインします。



坂東眞理子基金 第11回「昭和女子大学女性文化研究賞」を 石井香江同志社大学准教授に

男女共同参画社会の推進に寄与する著作に贈る「昭和女子大学女性文化研究賞」の第11回受賞作が石井香江・同志社大学グローバル地域文化学部准教授の「電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか:技術とジェンダーの日独比較社会史」(ミネルヴァ書房)に決まり、坂東眞理子理事長・総長から表彰状と副賞30万円が贈られました。

「昭和女子大学女性文化研究賞」は、坂東眞理子理事長・総長が「孤独だが、世の中を変える力のある本を書くという作業を応援したい」との思いから、著書の印税などを寄付して坂東眞理子基金を設立。前年に刊行した単行本を対象に顕彰しています。今回は、29点の応募作品から、学内外の選考委員(坂東委員長)9人が「歴史的社会的な視点から、さまざまな資料を徹底的に丹念に考察した、高い独自性」を評価しました。

記念講演 「見えないものに迫る方法」

贈呈式に続き、記念講演「見えないものに迫る方法:電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか」が行われました。石井氏は、19世紀末のベルリン電話局の様子を描いた絵



を基に、電話交換手は「もともとは男性の仕事で、かつ立って体を使う仕事だった」と解き明かしました。女性の仕事になった過程は「女性の声の方が感じが良い」というあいまいな表現でしか説明されず、「ブラックボックス」だったため、受賞作で、その過程の見える化を目指したといいます。

史料から、当時を知る人たちへの聞き取り調査を通じて「職場の文化」が浮かびあがり、男性が電信技師、女性が電話交換手と、ジェンダーによって職務が分離していく過程の解明を試みています。石井氏は「的確に課題を指摘いただき、背中を押していただいた」とし、今後は「受付嬢ロボット、コールセンターなどとの関連も含めて研究に取り組む」と抱負を語りました。

Teachers of the Year

人見記念講堂で2月12日、2018年度のTeachers of the Year受賞者が発表され、表彰式を行いました。

「日本文化発信プロジェクト」人間文化学部 日本語日文学科 植松 容子 専任講師
第50回日本語教育方法研究会においてプロジェクト参加学生と共にポスター発表を行い、日本語学習者を対象に作成した冊子は日本語教育の場で教材として活用。日本語学校との積極的な連携に尽力し大学での教育を社会に結びつける。

グローバルビジネス学部 会計ファイナンス学科 山田 隆 教授

「株式会社仮想売買シミュレーションシステム」「Astra Manager」の導入など、革新的・実践的な講義で、学生の学修意欲を喚起するだけでなく、附属校・キャリアカレッジでも活用され大きな評価を得るとともに実践的な金融経済教育に大きく貢献。また学科運営においても、簿記検定試験で高い合格率を実現。

人間社会学部 初等教育学科 國分 有穂 専任講師

2020年度からの小学校英語教科化に向け、ポストン留学プログラムにおける「アメリカ初等教育演習」などの充実と外国語(英語)二種免許取得に向けた指導を行い学科での英語教育の基盤形成に貢献。

生活科学部

「美カフェ」プロジェクト・チーム 一同

健康デザイン学科4年生学寮研修「美カフェ」プロジェクトにおいて活動開始から5年間にわたり学生指導、地域との連携、資金獲得などに尽力。その活動は館山市地域住民と教育委員会から高く評価されている。



2018年度 「科学研究費等助成事業」に採択された研究

◎新規採択研究

基盤研究(C)

- ・谷文見一門の研究—江戸後期の文人社会における交流を軸として— 鶴岡 明美 准教授
- ・ムルムニスラ絵画研究—ルシニョルとカザスを中心に— 木下 亮 教授
- ・古・中英語期における女性聖人伝の系譜研究:Aelfricのテキストと言語を中心に 島崎 里子 准教授
- ・現代モンゴル語書きことばの形成 呼和巴 特爾 教授
- ・教材開発を目指した高齢者介護施設における新人介護人材育成のプロセスの実態調査 大場 美和子 准教授
- ・「越境による共創」で創出する中等教育カリキュラム・オープンイノベーションの探求 緩和 誠 准教授
- ・基礎的な包丁操作スキルを習得させるためのバイオメカニクスの根拠と教示方法の明確化 秋山 久美子 教授
- ・自閉症スペクトラムの対人社会性の解明—主観統覚検査の物語反応と視覚運動から— 田中奈緒子 教授
- ・クエン酸の疲労軽減効果の客観的評価とGADD34に着目した分子メカニズムの検証 渡辺 隆行 准教授

若手研究

- ・近代日本における社中を通じた邦楽の趣味嗜好形成過程の解明—一筆・長唄を中心に— 歌川 光一 専任 講師
- ・戦後日本における「若者」を社会問題化する言説のエスノメソッドロジー研究 小川 豊武 専任講師
- ・発達障がい児における学習・運動・神経基盤の変容過程解明による学習支援科学の構築 大森 幹真 助教
- ・ペニコウジエキスの安全性評価・標準化および医薬品との相互作用を中心に検討 横谷 肇倫 助教

◎継続研究

基盤研究(B)

- ・両手協調動作の制御における利き手・非利き手の役割に関する研究 山中 健太郎 教授
- ・同一価値労働同一賃金原則に基づく新たな賃金制度と法の研究—男女賃金格差の解消へ 森ます美 特任教授

基盤研究(C)

- ・世帯および地域の社会経済的要因が食生活や健康状況に与える影響—栄養疫学的検討 小西 香苗 准教授
- ・英語母語話者の物語コーパスに基づいた慣用語を中心とした絵本教材の作成と提供 金子 朝子 教授
- ・知的障害者の雇用継続を基盤としたコンピテンシー・モデルの構築 根本 治代 准教授
- ・透析室における患者と医療スタッフの快適性に関する研究 堤 仁美 専任講師
- ・カンボジア農村女性の出稼による乳幼児の栄養・健康と生計への影響調査 米倉 雪子 准教授
- ・日本手話における等位構造的統語分析 浅田 裕子 准教授
- ・死体の利用における手続保障に関する比較法的研究 森本 直子 准教授
- ・ホームヘルパーが生活援助サービスのなかで用いる援助方略の可視化 中矢 亜紀子 専任講師
- ・保育所における食事援助の質向上を目指す研修ツールの開発・多職種アプローチを通して 遠藤 純子 専任講師
- ・「薄儀文書」の構築と研究 ホルジギン呼称助 教授
- ・Domestic Spaces in Gothic Literature Landau Samantha 専任講師
- ・異文化間コミュニケーションにおける共感:日本語母語話者と英語母語話者の会話の分析 山本 綾 准教授

若手研究(A)

- ・ハルス中性子及び高エネルギーX線をを用いた鉄鋼文化財の非破壊分析法の確立 田中 眞奈子 専任講師

若手研究(B)

- ・経営実践における「戦略」の正当化と「戦略論」の規範喪失に関する理論的・実証的研究 高木 俊雄 准教授
- ・社会的養護における当事者参画のシステム化:アクションリサーチのための予備的研究 永野 咲 助教

キャリア支援センター「9年連続 女子大ナンバー1」 本学過去最高の「実就職率」97.3%

2018年度の本学の就職状況がまとまりました。このところの堅調な景気を背景とする「売り手市場」が続いた結果、2019年3月卒と2018年9月卒を合わせた卒業生1,366人のうち、就職したのは1,307人で、就職希望者に対する就職率は99.3%となりました。これは過去最高だった2016年度の99.2%を0.1ポイント更新し、文部科学省が

まとめた全国の私立大学女子の97.8%を1.5ポイント上回りました。また、卒業生全体から大学院進学学生23人を差し引いた1,343人を分母とする「実就職率」は97.3%となり、前年度を0.6ポイント上回って過去最高記録を更新。調査会社の大学通信がまとめた卒業生1,000人以上の女子大で9年連続第1位になりました。

今回は「キャリア教育・

支援の昭和女子大学」の成果を継続して上げることができたのは、第一に卒業生自身の努力と頑張りがあります。本学の学生の特長である真面目さや前向きな姿勢が、就職活動でも十二分に発揮さ

れ、それに加えて、本学の就活支援の強みである「教職員による連携」が就活生を後押ししました。さらに、本学を巣立った卒業生が、就職した先で高い評価を得ており、「引き続き昭和女子大から人材を探りたい」と考える企業や学校、自治体などが数多くあります。以上のような総合力があっはじめて「9年連続女子大N0.1」を達成することができたと言えます。

今春の卒業生の面接解禁は、前年に続き4年生の6月でしたが、実際にはそれ以前から水面下で選考が行われました。3年生の夏休みに1DAYという短い期間の公募インターシップが行われ、そこから早期選考に進み、早い段階で内定・内々定をもらった学生も多数いたようです。こうした動きをいち早くつかみ、学生に情報提供したことも、就職

率のアップにつながりました。

業界別では、製造業や流通、サービス、建設、不動産、航空・運輸、福祉・医療など、一般的に企業の採用意欲は強かったものの、メガバンク3行が一般職の採用数を大きく減らし、本学からの就職者が激減した銀行もあります。以上のような総合力があっはじめて「9年連続女子大N0.1」を達成することができたと言えます。

本学の就職者のうち正社員・常勤職員は1,257人で全体の96.2%。契約職員・非常勤職員は48人で3.7%。派遣社員は1人で0.1%でした。この傾向はこれまでと同様です。また、総合職が419人、転動のない準総合職が46人、一般事務職が257人で、総合職・準総合職の比率は年々増加しています。

【昭和女子大学を卒業後、一歩踏み出して行動し続ける女性を紹介するシリーズ】

企業の悩みをデジタルで解決 デジタルコンサルティング

アクセントゥア株式会社 デジタルコンサルティング本部 シニア・マネジャー
附属昭和中学校・高等学校を経て、昭和女子大学 人間文化学部 英米文学科 1997年卒業
卒業後、商社で3年、IT企業で14年間、フリーランスを経て現職

コンサルティング会社で、デジタル領域の提案や企画を担当しています。お客様の悩みや課題をヒアリングした上で、どうデジタルを活用して課題を解決していくかを一緒に考えていくことが業務です。クライアントは基本的に日本企業ですが、アクセントゥアは世界で53拠点を持つグローバル企業なので、詳しい人が日本にいないでもグローバルで蓄積された知見を活用し、海外の専門家と連携できます。短期間でパフォーマンスを出さないといけないこともあり、大変ですがやりがいも感じています。

中学と高校も昭和学園で、中1の頃からアメリカ人の先生に英語を習い、英語を使って異文化の人たちとコミュニケーションできるようにになりたいと漠然と思っていました。「世の光となろう」というスクールモットーからも、グローバル社会で貢献できる人になるよう推奨されている、というように感じていました。学外の交換留学制度を利用して高校で米ウィスコンシン州に1年間留学しました。高3から昭和女子大学の授業に参加できる「五修生」を選択し、一般よりも1年早く大学に進学しました。

学科で必修だった昭和ボストンへの留学では、毎日ワクワクしながら授業を受けていました。先生を中心にいつも輪になって、インタラクティブなスタイルで授業を行っていたのが印象的です。昭和ボストンでは各寮に現地の大学生がRA(Residential Assistant)として一緒に生活していました。現地アメリカの大学生はとても自立していて、どんなことを感じて、どんなことを考えて生活しているかを間近に見られたことはいい勉強になりました。

学寮研修などのイベントが多かったせいか、チームの中で自主的に考えて行動する習慣が身についていたように思います。あとはルールが多い学校だったので、その中で楽しみをみつける術も身につけた気がします。私の回りにいる昭和出身の同級生や卒業生は、粘り強くやり切る、そんな底力がある人が多いように感じています。決して派手ではないのですが、かといって地味でもなく、昭和の生徒は質実剛健と言われていました。私も仕事だと特にそんなところがあるかもしれません。

五修生制度とは、中高6年間の教育課程を5年間で修了し、6年生の1年間は、本校に籍を置きながら昭和女子大学で学ぶ制度です。1年早く進学し、余裕を持って留学や専門分野の研究ができます。また、卒業時に海外協定大学の学位も取得できる5年間のダブルディグリープログラムの取得にも有利となります。

グローバルな環境で 協力・チャレンジ・マネジメント

イケア・ジャパンTokyo-Bay Recovery マネジャー
昭和女子大学 国際学部 英語コミュニケーション学科 2002年卒業
2児の母

様々な国籍の同僚がおり、英語で会議、メール、プレゼンテーションをする日々ですが、入学するまでは今の自分が全く想像できないくらい、英語は苦手でした。将来、英語は仕事で重要なツールとなると思い、昭和ボストンへの留学を必修としている英米文学科(現・英語コミュニケーション学科)に迷わず進学しました。仕事ができるのは大学4年間のおかげです。

在学中のアルバイトで大型店舗新規開店に携わり、その会社に就職して店舗運営のあらゆることを体験しました。この経験を通じて商品を販売するだけでなく、「お客さまに生活提案の場を提供する」ことを仕事にしていこうと2006年、イケアが日本上陸するタイミングで転職しました。

入社したイケアは、巨大な「青い箱」。中身は床だけでした。そこにグローバルに展開するためのたくさんのマニュアルをもとに陳列して店の形を創っていきました。チーム全員初めてのことで正解が分からず、混乱の中でどうやって課題を解決していくか。ルールや前例がないところから、みんなで一緒に創り出す面白さ。これが好きで仕事をしているような気がします。

2011年3月11日。たまたま、マネジャー職が交代で務める店長代理でした。東日本大震災の大きな揺れ。予測できないことが起き、限られた時間の中で多くの判断をする必要がありました。お客さまのために何が一番大切な、従業員みんなが自発的に動いてくれ、無事、けが人も出さずに全員の帰宅を見送ることができました。「お客さまのために最適な判断をした」と自分が信じていれば、もし判断を誤って非難を受けたとしても自分のよりどころになると考えていました。基本的に人を信じて、みんなが考え提案してくれることを後押しすることで当日の責務を果たせたと思っています。

昭和女子大学で新しいことへのチャレンジを学びました。学寮研修や昭和ボストンでの寮生活で友人たちとぶつかりながら、相手を尊重して自分の役割を見つけていく体験を積みました。人生で初めてのことがいくつもありましたが、やってみないよりも、やってみてから考える、ということを知って学んだと思っています。

卒業生
訪問

